

ลมจากกรุงเทพฯ  
バンコクの風



JSPS  
BANGKOK  
NEWSLETTER  
2024



JSPS BANGKOK  
CONTENTS

センター長あいさつ Preface for 2024 issue	01	活動報告 Activities
特集1 日タイ学术交流の現況 Research Exchanges between Thailand and Japan		コラム Column
特集2 2024年度バンコク研究連絡センターの トピックス Bangkok Office Topics for 2024	02	表紙写真紹介 Introduction of the cover photo アクセス&コンタクト Access&Contact



## センター長あいさつ Preface for 2024 issue

バンコク研究連絡センターの活動報告書『バンコクの風』の2024年度版をお届けします。バンコクセンターでは、2024年度、新たな国際協力員の配置がなく、副センター長二人（福田、追川）、そして新しく加わった現地職員のBostonの4人体制で活動を行ってきました。2024年度も、昨年度と同様、バンコクセンターが担当する7つの同窓会（インド、バングラデシュ、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）の活動支援が中心でした。

今年度の最も大きな取り組みとして、“外国人特別研究員 ASEAN 短期”ポストドクプログラムの開始があげられます。兼ねてから同窓会より、ASEAN 諸国から外国人特別研究員の採用が非常に厳しいとの声が多く寄せられ、ちょうど Ronpaku プログラムがその役割を終えつつある現況を踏まえ、そのプログラムの代替プログラムとして本プログラムを開始しました。募集、応募受付に関しては ASEAN University Network (AUN)、そして選考に当たっては ASEAN の4つの同窓会から多大な協力をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

来年度も7つのJSPS同窓会の活動支援、ASEAN短期プログラムの拡充を柱として、JSPSネットワークの強化、国際共同研究の推進支援に、センター職員一丸となって努力していきますので、当センターへの活動に対するご理解とご支援をお願いします。

バンコク研究連絡センター長  
大谷 吉生



We are pleased to present the 2024 edition of the Bangkok Research Liaison Center's activity report, "Winds of Bangkok." In the 2024 fiscal year, the Bangkok Center operated with a team of four, consisting of two Deputy Directors (Fukuda and Oikawa) and a newly joined local staff member, Boston, without any new international cooperation staff being assigned. As in the previous year, the main focus of the Bangkok Center's activities was supporting the seven alumni associations (India, Bangladesh, Thailand, the Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia) under its jurisdiction.

The most significant initiative this year was the launch of the "ASEAN Short-Term Postdoctoral Fellowship Program for Foreign Researchers." Alumni associations had long voiced concerns about the difficulty of recruiting foreign researchers from ASEAN countries. Considering the current situation where the Ronpaku Program is coming to an end, we launched this program as a replacement. We received great cooperation from the ASEAN University Network (AUN) for recruitment and application acceptance, and from four ASEAN alumni associations for the selection process. We would like to take this opportunity to express our gratitude.

Next year, we will continue to focus on supporting the activities of the seven JSPS alumni associations and expanding the ASEAN Short-Term Program. The center staff will work together to strengthen the JSPS network and support the promotion of international joint research. We appreciate your understanding and support for our center's activities.

Yoshio Otani  
Director of JSPS Bangkok Office

## 特集 1

### 日タイ学術交流の現況

### Research Exchanges between Thailand and Japan

(センター長 大谷吉生)

大谷センター長が JSPS バンコクセンターに着任をして 4 年以上が経ちました。そこで、JSPS バンコクセンターの研究交流支援活動についてのご紹介と、日本とタイの学術交流の現状をどのように捉えるか、センター長の視点からお届けします。

#### 1. はじめに

2020 年 10 月に、タイの JSPS バンコク研究連絡センター長として着任した。当時、世界はコロナパンデミックの真っただ中で、7 月赴任予定が 10 月にずれ込み、バンコクに着いてからも 2 週間ホテルで隔離生活を余儀なくされた。2 週間、全くホテルの部屋を出ることを許されず、楽しみと言えば運ばれてくる 1 日 3 回の食事だけ、禁酒、禁煙ということもあり、65 年間で体内に蓄積された毒素、悪い習慣を隔離生活で全てクリアランスして、全く新しい第 2 の人生をタイでスタートさせた。

タイとの関わりは、1999、2000 年の夏に JICA タマサート大学工学部拡充計画プロジェクト短期派遣専門家として派遣されたのがきっかけである。そのときのカウンターパートの先生は、今はハジャイにある大学 (Prince of Songkla University/PSU) の教授となり、現在も共同研究を続けている。

タイでは、2024 年 8 月に憲法違反を理由にセター首相が解任され、タイ貢献党の党首でタクシン元首相の次女ペートンタン氏が第 31 代の首相に選出された。このような政権交代が起こっても、実質的な政策は官僚が握っているため主要な政策に変更はなく、今後も継続した科学技術政策が実施されると考えられる。

2023 年は日 ASEAN 友好協力 50 周年であり、通常の日 ASEAN 首脳会議に加えて、12 月に東京で特別首脳会議が開催され、「包括的戦略的パートナーシップ」が日本との間で締結されている。しかし、一方で、中国を筆頭に各国が科学技術・イノベーションに関して ASEAN 地域との連携を強化する傾向が見られ、相対的に日本のプレゼンスが低下している感があることは否めない。

本稿では、JSPS バンコクセンターの研究交流支援活動について紹介させていただき、タイと日本の学術交流の現状を理解する一助としていただければ幸いである。

#### 2. JSPS バンコクオフィス

独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) は、学術に関する国際交流における我が国と諸外国との関係強化を図るため、9 か国 10 か所に海外研究連絡センターを設置している。その活動内容は以下の通りで、ブラジル・サンパウロには海外アドバイザーを設置している。

- ・ JSPS が協力協定等を締結している海外の学術振興機関等との連携
- ・ 海外学術機関との協力によるシンポジウム、コロキウム等の実施
- ・ 我が国の大学の海外活動展開への協力・支援

- ・フェローシップ等の JSPS 事業経験者のネットワーク構築・支援
- ・我が国の学術情報の発信及び海外の学術動向・大学改革等の情報収集

センターによって中心となる取り組みは異なるが、バンコクセンターの主な役割は、JSPS プログラムの終了者で組織される同窓会の活動支援を通して、タイでは国家研究評議会事務局（National Research Council of Thailand/NRCT）、フィリピンでは科学技術学部（Department of Science and Technology/DOST）などと協働して、さまざまな日本と海外の研究者交流を推進することである。

東南アジアではバンコクオフィスが唯一の研究連絡センターで、現在、アセアン 4 か国（タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）の同窓会に加え、バングラデシュ、ネパール、そしてインド同窓会を担当している。JSPS プログラムで日本に滞在した研究者の多くは、プログラム終了後母国に帰り、大学、研究所などで教育、研究を継続している。彼らはみんな日本大好き、そして日本の大ファンで、彼らとの関係をプログラム終了後も保つことで、次の世代の研究者を日本へ呼び込むことが可能になる

### 3. タイの科学研究イノベーションシステム

タイにおいて、日本との研究・国際交流を支援する JSPS のパートナーは NRCT である。タイ政府の科学研究体制は少し複雑なので以下に紹介する。

タイにおけるこれまでの科学、研究、イノベーションの促進において、政策の一貫性の欠如に加え、生産、貿易、サービス産業に対する支援の欠如、そして研究とイノベーションの恩恵を受ける人々に対する支援がないことが大きな問題であった。その結果、研究とイノベーションから得られるさまざまな成果が、タイ国の経済的および社会的利益に全くつながっていなかった。そこでタイ政府は、SRI を基礎としたタイ国の発展のためには、高等教育と SRI の融合が不可欠と考え、それまでの科学技術省（Ministry of Science and Technology/MOST）と教育省（Ministry of Education/MOE）の高等教育局を統合した高等教育科学研究イノベーション省（Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation/MHESI）を 2019 年に発足させた。

#### • Re-design of Science Research and Innovation (SRI) System

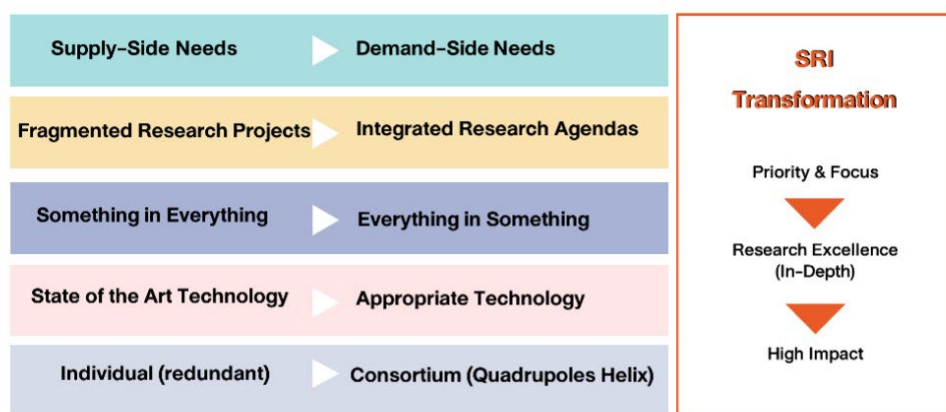


図 1 タイの SRI システム再構築の概念



これまでの反省に立った SRI システムの大きな変更は、図 1 に示すように、

1. 供給側ではなく、需要側のニーズを重視
2. 断片化された研究ではなく、統合的研究へ
3. “全てにある何か”ではなく“何かにある全て”
4. 最先端技術ではなく、適切な技術
5. 個別（冗長）ではなく、コンソーシアム（産官学民の連携）

したがって、SRI は、“優先と集中”→“卓越した研究”→“大きな影響”につながるものでなければならない。

SRI システムの構造は図 2 の通りである。国家レベルの科学技術イノベーション政策を立案する委員会として、国家高等教育科学研究イノベーション政策評議会（National Higher Education Science Research and Innovation Policy Council/NXPC）がある。この評議会は内閣に直属し、タイ首相が議長を務め、10 省の大臣もこのメンバーである。この評議会を支援する事務局として、MHESI の傘下の国家高等教育科学研究イノベーション政策評議会事務局（Office of National Higher Education Science Research and Innovation Policy Council/NXPO）がある。

政策に沿って科学技術イノベーションを実現するため、プロジェクトを策定し、予算を配分する組織が、タイ科学研究イノベーション委員会、TSRI 理事会、科学研究イノベーション監視評価委員会（Monitoring and Evaluation of Science, Research and Innovation Committee）からなる組織である。そして、これらの委員会を支援するのが、タイ科学研究イノベーション事務局（Thailand Science Research Innovation/TSRI）である。

タイ科学研究イノベーション基金の配分を受けて、研究資金を配分し、研究とプロジェクトを管理するのがプログラム管理ユニット（Program Management Unit/PMU）である。2023 年度の基金総額は 16,354 ミリオンバーツ（約 720 億円）である。

タイ科学研究イノベーションを担う機関は、大学、研究所、各省の部門である。

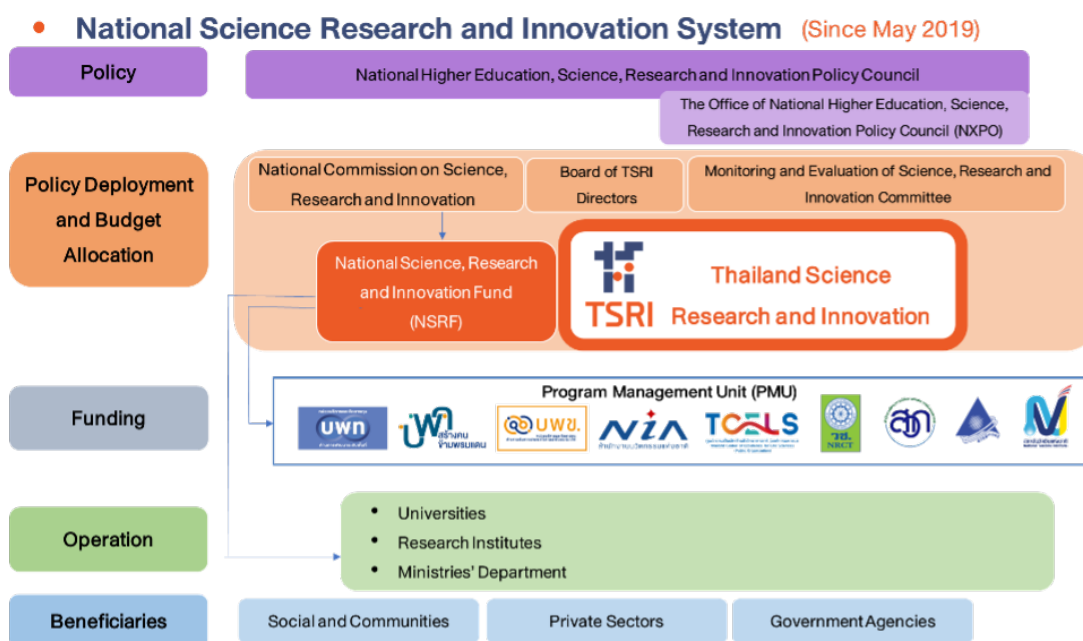


図 2 SRI システムの構成

### 3. 1 国家高等教育、科学、研究、イノベーション政策評議会

国立高等教育、科学、研究、イノベーション政策評議会は、高等教育政策と整合性のある国家の科学、研究、イノベーション政策を策定する。SRI の予算枠組みとそれぞれへの予算配分を決定するとともに、SRI システムを改善するための対策を講じ、そのプロセスが適切で統一されたものであることを監視する。政策評議会には、学術および管理業務を担当する国立高等教育科学研究イノベーション政策評議会事務局（NXPO）があり、評議会の運営をサポートしている。

### 3. 2 国家科学研究イノベーション推進委員会

国家科学研究イノベーション促進委員会 CSRP は、政策評議会に対し、（1）SRI 政策と計画、予算枠組み、予算配分システムに関する助言、（2）国家科学研究イノベーション促進基金の管理、SRI システム内の各機関への予算配分、（3）各機関の運営を促進・支援するための対策の実施、（4）SRI 計画と整合性が取れているかどうか、各機関の運営を監視する。タイ科学研究イノベーション事務局（TSRI）は、CSRP の学術的および管理的な業務を担当、支援する。これらの取り組みは、新たな知識体系の構築、公共政策の策定、持続可能な社会を実現のための研究とイノベーションの応用の促進につながる。

### 3. 3 タイ科学研究イノベーション監視評価委員会

タイ科学研究イノベーション監視評価委員会は、支援する研究およびプロジェクトの監視、調査、評価に加え、TSRI などの支援機関の運営実績を監視・評価する。当委員会は、これらの運営実績を CSRP へ報告するとともに、CSRP が政策評議会にレポートを提出する際のアドバイスをを行う。

### 3. 4 プログラム管理ユニット

プログラム管理ユニット（PMU）は、SRI 計画に従って、科学、研究、イノベーション開発を支援するための資金を提供とともに、研究とプロジェクトを管理する。プログラム管理ユニット（PMU）には、国家研究評議会事務局（NRCT）、国立イノベーション庁（NIA）、農業研究開発庁（ARDA）、保健システム研究所（HSRI）、人材および組織開発プログラム管理ユニット（PMU-B）、競争力プログラム管理ユニット（PMU-C）、地域開発プログラム管理ユニット（PMU-A）、国立ワクチン研究所（NVI）、タイ生命科学卓越センター（TCELS）の 9 つがある。PMU-A, B, C は、既存の PMU に加えて、分野横断的に研究とイノベーションを推進するため 3 年間の期限付きで設置されたものであるが、現在も継続して存在している。



#### 4. おわりに

タイの SRI 推進の中核である国家高等教育科学研究イノベーション政策評議会（NXPC）の議長をタイ首相が務めていることからわかるように、首相が交代すると、組織の変更はなくても、その中身は大きく変更されてしまう。ここで紹介したように SRI 組織はしっかりとした理念に基づいて構築されているので、今後、この組織を如何に機能させいくかが、タイの SRI 推進の鍵になると考えられる。

タイは海外からの観光客で成り立っている国である。毎朝、アソークの交差点を渡って通勤しているが、多くの外国人がそこら中にあふれており、歩くのにも邪魔である。タイの観光、食べ物は旅行者にとって大きな魅力だが、長く住んでみるとタイの魅力はいったい何なのか、わからなくなってきた。今年 3 月に帰国された梨田大使が帰国されるとき挨拶で、タイ人は日本のことが大好きで、日本ファン、こんな国は世界中でタイだけ、そんな国にいと居心地がいいのは当たり前で、長くタイに滞在しているとみんな居たい居たい病に罹って帰りたくなくなる。しかし、日本ファンのタイ人は 60 歳以上がほとんどで、若いタイ人はだんだんと日本に魅力を感じなくなっている。今後、日本がタイとどう付き合って、日本ファンを維持していくか、それが大きな課題であると。

#### 参考文献

1. Thailand Science Research Innovation/TSRI、ホームページ  
URL: <https://tsri.or.th>
2. 科学技術振興機構研究開発戦略センター、  
海外調査報告書 ASEAN 諸国の科学技術情勢～タイ～  
URL : <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-OR-01.html>

## 特集 2

### 2024 年度バンコク研究連絡センターのトピックス

2024 年度にバンコク研究連絡センターが特に力を入れて取組んだ事業や、広く周知したい内容についてピックアップをしてお届けします。

#### 特に力を入れた事業①

##### 新規事業「外国人特別研究員 ASEAN 短期」

JSPS では ASEAN 地域に特化したプログラムとして、2024 年度から新たなプログラム「外国人特別研究員 ASEAN 短期」の募集を開始しました。バンコク研究連絡センターはその推薦機関として、公募から審査までを担っています。また、事業の実施に当たっては、ASEAN 地域に幅広いネットワークを持つ AUN (ASEAN University Network) に協力をいただきました。

本事業は、JSPS の他事業と比べて応募をしやすいスキームとなっていること、博士号取得前であっても応募が可能であるという特徴があります。本事業は最大 1 年間という短期のプログラムですが、日本で研究をするきっかけとなること、日本と研究を行う上での人脈づくりとなること、博士号取得以降を対象とした長期の JSPS 事業への応募につながること等が期待されます。

#### Key Initiative ①


##### New Project "ASEAN Short-Term Postdoctoral Fellowship Program for Foreign Researchers"

As a program specifically tailored to the ASEAN region, JSPS has launched a new program, the "ASEAN Short-Term Postdoctoral Fellowship Program for Foreign Researchers," starting in the 2024 fiscal year. The Bangkok Research Liaison Center serves as the recommending institution, handling everything from the call for applications to the review process. Additionally, we have received cooperation from the AUN(ASEAN University Network), which has an extensive network in the ASEAN region, for the implementation of this project.

This program is designed to be more accessible compared to other JSPS programs, allowing applications even before obtaining a doctoral degree. Although it is a short-term program lasting up to one year, it is expected to serve as an opportunity for conducting research in Japan, building networks for research collaboration with Japan, and leading to applications for long-term JSPS programs targeting post-doctoral researchers.



## 2025 年度派遣者の募集ポスター



# JSPS POSTDOCTORAL FELLOWSHIP FOR RESEARCH IN JAPAN 2025/2026

The scholarship offers opportunities for **post-doctoral researchers** from ASEAN countries to conduct cooperative research under Japanese guidance, aiming to advance their research activities and promote internationalization in Japan. The fellowship welcomes applicants from **all fields of research**.


## ELIGIBILITY

### Eligibility Criteria for Applicant

- Applicant must meet one in each of the categories below.
  - Category A: Conditions related to degree
    - Less than 6 years since obtaining a Ph.D. in a country other than Japan
    - Expected to obtain a Ph.D. in a country other than Japan within 2 years from the employment start date
  - Category B: Conditions related to nationality
    - Nationals of ASEAN member countries
    - A person who is a citizen of a country other than an ASEAN member country and has been engaged in research activities for the past three years at a research institution in an ASEAN member country.
- Must receive Letter of Acceptance/Invitation from the candidate's prospective host researcher in Japan (details indicated in Eligibility criteria for host researchers\*).

**Host Researchers\***

- Must be affiliated with a research institution eligible to apply for KAKENHI grants (Grants-in-Aid for Scientific Research, JSPS).
- Must be full-time researchers, but exceptions may be made if the host institution can ensure uninterrupted program execution.
- Eligible host institutions include universities, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) - affiliated institutions, colleges of technology, and institutions designated by the Minister of MEXT.
- Host researchers cannot change during the fellowship tenure.



### FELLOWSHIP STARTING PERIOD

1 April 2025 - 31 March 2026

Duration of Fellowship: 1 - 12 months

as agreed upon between applicant & host researcher

### TYPES OF FINANCIAL SUPPORT

**AIRFARE**    A round-trip air ticket  
\*Based on JSPS's Regulations

**MONTHLY ALLOWANCE**

For Ph.D. holders: 362,000 JPY per month  
 For Non-Ph.D. holders: 200,000 JPY per month\*


\*If you obtain a degree during the employment period, the fee can be changed to 362,000 yen/month.

**MISCELLANEOUS EXPENSES**

**Settling-in allowance:** 200,000 JPY

\*Applicable for Fellows with 3 or more months of tenure (Research support allowance up to 70,000 JPY per month)

### REQUIRED DOCUMENT


-  A completed application form
-  Letter of acceptance from the prospective host researcher in Japan
-  Ph.D. degree diploma or certificate of expected degree completion
-  Letter of recommendation from the candidate's doctoral supervisor or equivalent

\*\*All documents must be in English, or accompanied by an English translation\*\*

### APPLICATION PROCESS



Applicants establish contact with prospective host researchers in Japan.




Applicants submit applications via the AUN web portal.



JSPS will announce the result.

#### MORE INFORMATION

nisanat.w@aunsec.org  
bkk-postdoc@overseas.jps.go.jp



Full Application Guideline



Application Form



JSPS Website

**Application Deadline**  

31

JULY 2024

**Result Announcement**  

Feb

2025

## 2024 年度に特に力を入れた事業 ②

### R-JAAA Meeting（南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議）の開催

2023 年度から新たな取り組みとして、当センターが管轄する計 7 つの同窓会（インド、バングラデシュ、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）の代表者が集まり、横断的に意見交換を行う「Regional JSPS Alumni Association Assembly (R-JAAA Meeting)」(南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議) を設けました。グッドプラクティスの共有などを通じた各同窓会の活動の活性化や、同窓会同士のつながりの深化が期待されます。

2024 年度には、インドで R-JAAA Meeting を開催し、インドの 3 大学を訪問するなど活動の幅を広げました。

#### ■開催実績

- 第 1 回 2023 年 9 月 4 日（オンライン開催）
- 第 2 回 2023 年 11 月 19 日（タイでの開催）
- 第 3 回 2024 年 9 月 4 日～7 日（インドでの開催）※16 ページ参照

## Key Initiative ②

### Hosting the R-JAAA Meeting (Representatives Meeting of South Asia and Southeast Asia JSPS Alumni Associations)

As a new initiative starting in the 2023 fiscal year, we established the "Regional JSPS Alumni Association Assembly (R-JAAA Meeting)" where representatives from the seven alumni associations under our jurisdiction (India, Bangladesh, Thailand, the Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia) gather to exchange opinions across associations. This initiative aims to invigorate the activities of each alumni association and deepen the connections between them through the sharing of good practices. In the 2024 fiscal year, we expanded our activities by hosting the R-JAAA Meeting in India and visiting three universities in India.

#### ■Achievements

- September 4, 2023 (online)
- November 19, 2023 (held in Thailand)
- September 4-7, 2024 (held in India)

\*Refer to page16



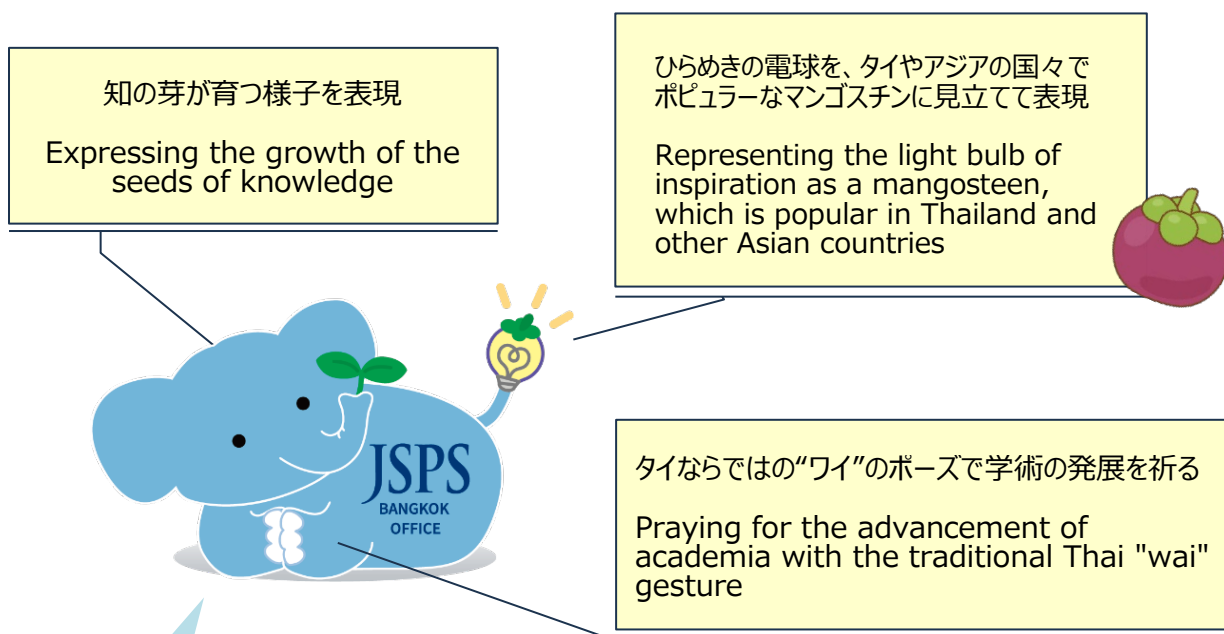
第 2 回 R-JAAA Meeting 出席者  
Participants of the 2nd R-JAAA Meeting



## 紹介：バンコクセンターオリジナルキャラクター “Su-Su chan”の誕生 Introduction : Bangkok office's original character "Su-Su chan"

タイやアジア圏ではキャラクターものが好きな人が多いと感じられたことから、オリジナルキャラクターを作成しました。“Su-Su”はタイ語の”頑張って！”、“chan(g)”はタイ語の”象”にかけています。今後は事業説明時などにおいて、JSPS に親しみを持ち目を引いてもらえるよう活躍予定です。

Given the fondness for character-themed items in Thailand and the broader Asian region, we created an original character. "Su-Su" is derived from the Thai phrase for "Keep going!" and "chang" is the Thai word for "elephant". Moving forward, we plan to use this character during project explanations and other activities to make JSPS more approachable and eye-catching.



### “Su-Su chan”グッズ



シンポジウムの受付にて  
At the reception desk of the  
symposium



JSPS の HP リンクを付けたクリアファイル  
A clear file with a link to the JSPS website



オフィスに入りやすいよう入口でお出迎え  
Welcoming everyone at the  
entrance of our office

## (参考) バンコクセンターの業務概要

### 研究者及び各種団体との情報共有【日系機関】

- 在タイ大学連絡会・・・タイに拠点を置く日本の大学等により、3 か月ごとに活動報告および情報交換が行われ、当センターはオブザーバー参加している。
- 広報文化連絡協議会・・・在タイ日本大使館、バンコク日本人商工会議所、タイ国日本人会の主催団体に加え、日本貿易振興機構（JETRO）・国際協力機構（JICA）・日本政府観光局（JNTO）・国際交流基金（JF）・日本学術振興会（JSPS）が参加。毎月、参加機関のタイでの活動報告および情報交換が行われる。
- 科学技術連絡会・・・在タイ日本大使館が主催し、3 か月ごとに宇宙航空研究開発機構（JAXA）、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）、独立行政法人国際協力機構（JICA）・情報通信研究機構（NICT）・京都大学 ASEAN 拠点オフィス・東京科学大学等が参加。科学技術分野に特化した情報交換が行われる。
- 産学連携部会・・・バンコック銀行が主催し、日本の産業界とタイの大学との連携促進のための情報交換が行われる。

### 海外団体との協力【対応機関】※同窓会の設置国を抜粋

- インド：科学技術庁(DST)、インド歴史研究評議会(ICHR)、インド社会科学研究評議会(ICSSR)
- バングラデシュ：バングラデシュ大学助成委員会(UGC)、バングラデシュ科学アカデミー(BAS)
- タイ：タイ学術研究会議(NRCT)
- フィリピン：科学技術省(DOST)
- インドネシア：教育文化研究技術省高等教育総局(DGHERT)
- マレーシア：マレーシア国立大学長会議（VCC）

### 学術イベント、留学説明会等での事業説明

- 当該国に特化した内容で事業説明
- JSPS 宣伝ツールや各種ブローシャ等の提供

### 大学等の活動支援

- 東南アジア・南アジア諸国で日本の大学等が開催する学術イベントを後援、JSPS 同窓会員をはじめとした各国研究者の紹介

### JSPS 海外同窓会の活動支援

- 運営支援、シンポジウム等のイベント開催支援
- 日本人講師の招へい支援



JSPS Bangkok Office Website



JSPS Bangkok Office Brochure



## Bangkok Office Business Overview

### Information Sharing with Researchers and Various Organizations (Japanese institutions)

■ JUNThai ・ ・ ・ Japanese universities and other institutions based in Thailand hold activity reports and information exchange every three months, with our center participating as an observer.

■ Public Relations and Culture Liaison Council ・ ・ ・ In addition to the main organizing bodies (the Embassy of Japan in Thailand, the Japanese Chamber of Commerce in Bangkok, and the Japanese Association in Thailand), participants include the Japan External Trade Organization (JETRO), Japan International Cooperation Agency (JICA), Japan National Tourism Organization (JNTO), Japan Foundation (JF), and Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). Monthly meetings are held for activity reports and information exchange regarding their activities in Thailand.

■ Science and Technology Liaison Committee ・ ・ ・ Hosted by the Embassy of Japan in Thailand, this meeting is held every three months and includes participants such as the Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA), Japan Science and Technology Agency (JST), Japan International Cooperation Agency (JICA), National Institute of Information and Communications Technology (NICT), Kyoto University ASEAN Center, and Tokyo University of Science. The focus is on information exchange in the field of science and technology.

■ Industry-Academia Collaboration Subcommittee ・ ・ ・ Hosted by Bangkok Bank, this subcommittee facilitates information exchange to promote collaboration between Japanese industries and Thai universities.

### Cooperation with overseas organizations (corresponding organizations) \* Excerpts from countries with alumni associations

India: Department of Science and Technology (DST), Indian Council of Historical Research (ICHR), Indian Council of Social Science Research (ICSSR)

Bangladesh: Bangladesh University Grants Commission (UGC), Bangladesh Academy of Sciences (BAS)

Thailand: National Research Council of Thailand (NRCT)

Philippines: Department of Science and Technology (DOST)

Indonesia: Directorate General of Higher Education (DGHERT), Ministry of Education, Culture, Research and Technology

Malaysia: Council of Chancellors of National Universities of Malaysia (VCC)

### Explanation of Projects at Academic Events and Study Abroad Briefings.

Provide project explanations tailored to the specific country.

Offer JSPS promotional tools and various brochures.

### Support for University Activities.

Support academic events held by Japanese universities in Southeast and South Asian countries.

### Support for JSPS Overseas Alumni Associations

Provide operational support and assistance in hosting events such as symposiums

Support the invitation of Japanese lecturers

## 活動報告 Activities

バンコク研究連絡センターでは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である JSPS 海外同窓会の支援を積極的に行っており、タイ・インド・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア・マレーシアの計 7 つの同窓会組織や、各国の研究資金配分機関などと協力し、積極的にシンポジウムやイベントを開催しています。

JSPS Bangkok Center actively supports the JSPS Overseas Alumni Associations, which are organizations of researchers who have visited Japan through JSPS international exchange programs. We collaborate with the seven alumni associations in Thailand, India, Bangladesh, the Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia, as well as with research funding agencies in each country, to actively host symposiums and events.

### ■タイ同窓会（JAAT）らが Ecoprinting, Food safety, Biochar をテーマにワークショップを実施（2024 年 6 月 9 日～11 日）

### ■ JAAT held a workshop on the themes of Ecoprinting, Food safety, and Biochar (June 9-11, 2024)

2024 年 6 月 9 日から 11 日にスコートタイ県において、JSPS タイ同窓会（JAAT）と国家研究評議会事務局(NRCT)、ラムカムヘン大学が共同でワークショップを開催しました。

ワークショップでは、同窓会メンバーやラムカムヘン大学の教員が、地元住民の参加者に対し、地球温暖化対策としてカーボンフットプリントの削減やカーボンニュートラル観光に基づく観光計画についての講義や、食品の衛生管理に関する講義を行い、用意していた会場は満席となりました。また、講義後には、実習セッションとして、廃棄物のバイオ炭を利用した料理器具の実習、植物からのエコプリントの実習を行いました。



ワークショップ参加者と  
with workshop participants



植物からのエコプリントの実習  
Practice of eco-printing from plants



また、会場となった地域の自治体からは、自治体独自の取組として実施している、住む家を持たない人に対する家の提供と、障がい者支援とを結びつけた取組について説明を受けるとともに、実際の実取組現場を視察しました。具体的には、住む家を提供してもらった人が障がいを持つ人と一緒に住み、障がいを持つ人の日々の生活のサポートを行うという取組です。自治体の方々や地域住民の熱心さが印象的でした。

From June 9 to 11, 2024, the JSPS Thailand Alumni Association (JAAT), the National Research Council of Thailand (NRCT), and Ramkhamhaeng University jointly hosted a workshop in Sukhothai Province.

During the workshop, alumni members and faculty from Ramkhamhaeng University delivered lectures to local residents on topics such as reducing carbon footprints and planning carbon-neutral tourism as measures against global warming, as well as food hygiene management. The venue was filled to capacity. Additionally, after the lectures, practical sessions were held, including cooking demonstrations using utensils made from biochar derived from waste and eco-printing from plants.

Additionally, the local municipality hosting the event explained their unique initiative, which combines providing homes for people without housing and supporting individuals with disabilities. We also visited the actual sites where these initiatives are implemented. Specifically, the initiative involves providing homes to people who then live with individuals with disabilities and support their daily lives. The enthusiasm of the municipal staff and local residents was impressive.



自治体の方々との情報交換  
Exchange of information with local government officials

## ■マレーシア同窓会（JAAM）らが「JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM」を開催

（2024 年 8 月 17 日）

### ■JAAM held “JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM” (August 17, 2024)

2024 年 8 月 17 日に、JSPS マレーシア同窓会（JAAM）、Academy Science of Malaysia（ASM）および当センターが共催で「JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM」をマレーシア・クアラルンプールにて開催しました。

本シンポジウムでは「Using Science and Technology to Provide Nature-Based Solutions to Planetary Health」をテーマに、両国の研究者 3 名が講演を行いました。

はじめに JAAM 会長の Prof. Dr. Datuk Asma Ismail、大谷吉生センター長らがあいさつし、その後、横浜市立大学の坂智広教授、World Fish Center の Prof. Dr. Eddie Allison、マレーシア工科大学の Prof. Ts. Dr. Ali Selamat から講演があり、約 60 名の参加者らが熱心に耳を傾けました。

On August 17, 2024, the JSPS Malaysia Alumni Association (JAAM), the Academy of Sciences Malaysia (ASM), and our center co-hosted the "JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM" in Kuala Lumpur, Malaysia.

The symposium, themed "Using Science and Technology to Provide Nature-Based Solutions to Planetary Health," featured lectures from three researchers from both countries. The event began with greetings from JAAM President Prof. Dr. Datuk Asma Ismail and Our Director Yoshio Otani, followed by lectures from Prof. Tomohiro Ban of Yokohama City University, Prof. Dr. Eddie Allison of the World Fish Center, and Prof. Ts. Dr. Ali Selamat of the Malaysia University of Technology. Approximately 60 participants attentively listened to the presentations.



JAAM メンバーと  
With JAAM members

#### <講演タイトル（Lecture Titles）>

■ Challenges to Sustainable Crop Production by Developing Plant Genetic Diversity and Rhizosphere Environment Tuning Capabilities  
(Prof. Dr. Tomohiro Ban, Yokohama City University)

■ Aquatic foods can be a nature-based solution to the Challenge of food System Sustainability  
(Prof. Dr. Eddie Allison, WorldFish Center, Penang)

■ Nurturing Science & Technology in Malaysia-Japan International Institute of Technology for Betterment of Community  
(Prof. Ts. Dr. Ali Selamat, Universiti Teknologi Malaysia、Kuala Lumpur)



■バンコク研究連絡センターが第3回 R-JAAA Meeting（南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議）を開催（2024年9月4日から7日）

■JSPS Bangkok Office held “The 3rd R-JAAA Meeting (JSPS Alumni Association Presidents Meeting in South and Southeast Asia)” (September 4th to 7th, 2024)

2024年9月4日から7日に、当センター主催で第3回 R-JAAA Meeting（南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議）を開催しました。

今回はインドのデリー州及びアッサム州で開催し、会議には当センターが管轄する7か国の同窓会のうち、6か国（インド、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）の同窓会の代表者が参加しました。※バングラデシュ同窓会は同国の情勢により欠席

今年度は、インド同窓会が当会議の企画・運営を担い、デリーにおける Indian Institute of Technology Delhi (IIT Delhi) 及び Jawaharlal Nehru University (JNU) の視察、グワハーティーにおける Indian Institute of Technology (IIT Guwahati) の視察、インド同窓会のシンポジウム（14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024)）への参加を行いました。

また、それらのプログラムを踏まえて、多国間の研究交流促進等に関する意見交換を行いました。R-JAAA は、今後も継続的にコミュニケーションを図ることで、複数国横断的な連携体制の構築を目指します。

From September 4 to 7, 2024, we, JSPS Bangkok office, hosted the 3rd R-JAAA Meeting (Representatives Meeting of South Asia and Southeast Asia JSPS Alumni Associations). This year's meeting was held in the states of Delhi and Assam, India, with representatives from six of the seven alumni associations under our center's jurisdiction (India, Thailand, the Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia) participating. \*The Bangladesh alumni association was absent due to the situation in their country.

This year, the India alumni association took charge of planning and organizing the meeting. Activities included visits to the Indian Institute of Technology Delhi (IIT Delhi) and Jawaharlal Nehru University (JNU) in Delhi, as well as the Indian Institute of Technology Guwahati (IIT Guwahati) in Guwahati.



IIT Delhi 視察

Visit to IIT Delhi

Participants also attended the India alumni association's symposium, the 14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024).

Based on these programs, discussions were held on promoting multilateral research exchanges.

R-JAAA aims to continue fostering communication to build a cross-national collaborative framework.



JNU との意見交換  
Exchange of opinions with JNU

■インド同窓会（IJAA）らが「14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024)」を開催（2024年9月6日から7日）

■IJAA held the “14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024)” (September 6-7, 2024)

9月6日から7日に、JSPS インド同窓会（IJAA）及び IIT グワーハーティー大学は、「14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024)」をインド・グワーハーティーで開催しました。



会場の IIT グワーハーティー大学  
Venue: IIT Guwahati University



このシンポジウムには、JSPS インド同窓会メンバーやグワーハーティー地域の研究者、IIT グワーハーティー大学の学生らが参加し、科学技術に関して日・印両国の研究者による講演や、参加者を含めた意見交換を行いました。

日本からは、筑波大学の永田 恭介学長、大根田 修教授、総合地球環境学研究所の長田 俊樹教授、九州工業大学の神谷 亨教授、岐阜大学の小山 博之教授らをお招きしご講演をいただきました。また、JSPS バンコク研究連絡センターからは、シンポジウム冒頭に大谷センター長が挨拶を行い、追川副センター長が JSPS の事業説明を行いました。

From September 6 to 7, the JSPS India Alumni Association (IJAA) and IIT Guwahati hosted the "14th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2024)" in Guwahati, India.

This symposium was attended by JSPS India alumni members, researchers from the Guwahati region, and students from IIT Guwahati. The event featured lectures by researchers from both Japan and India on science and technology, as well as discussions involving the participants.

From Japan, we invited speakers including President Kyosuke Nagata of the University of Tsukuba, Professor Osamu Ohneda, Professor Toshiki Osada of the Research Institute for Humanity and Nature, Professor Toru Kamiya of Kyushu Institute of Technology, and Professor Hiroyuki Koyama of Gifu University.

From the JSPS Bangkok Office, Director Otani gave a speech at the beginning of the symposium, and Deputy Director Oikawa provided an explanation of JSPS's projects.



熱心に聴講する参加者  
Participants listening attentively

■フィリピン同窓会（JAAP）らが「6th JAAP INTERNATIONAL RESEARCH AND DEVELOPMENT CONFERENCE (JAAP-IRDC-6)」を開催（2024 年 10 月 26 日）

■JAAP held the Seminar Series “6th JAAP INTERNATIONAL RESEARCH AND DEVELOPMENT CONFERENCE (JAAP-IRDC-6)” (October 26, 2024)

2024 年 10 月 26 日に、JSPS フィリピン同窓会（JAAP）は、University of Santo Tomas Manila、Department of Science and Technology(DOST)および当センターと共催で、「6th JAAP INTERNATIONAL RESEARCH AND DEVELOPMENT CONFERENCE (JAAP-IRDC-6)」をフィリピンのマニラにて開催しました。

はじめに JAAP 会長の Dr. Maria Rowena R Eguia、大谷吉生センター長らが挨拶を行い、その後、日本からは九州大学の渡邊隆行教授、東京大学の割澤伸一教授、フィリピンからは 8 名の研究者が講演を行いました。

University of Santo Tomas Manila の学生も参加し、日本での研究や JSPS 事業についても興味を持ってもらうことができ、貴重な学術交流の場となりました。

On October 26, 2024, the JSPS Philippines Alumni Association (JAAP), in collaboration with the University of Santo Tomas Manila, the Department of Science and Technology (DOST), and our center, hosted the "6th JAAP INTERNATIONAL RESEARCH AND DEVELOPMENT CONFERENCE (JAAP-IRDC-6)" in Manila, Philippines.

The event began with greetings from JAAP President Dr. Maria Rowena R Eguia and Director Yoshio Otani. Following the opening remarks, lectures were delivered



JAAP メンバーと  
With JAAP members



大谷センターの挨拶  
Dr. Yoshio Otani delivering opening remarks





会場の様子  
At the symposium Venue

by Professor Takayuki Watanabe from Kyushu University and Professor Shinichi Warisawa from the University of Tokyo, along with eight researchers from the Philippines. Students from the University of Santo Tomas Manila also participated, showing interest in research conducted in Japan and JSPS projects, making it a valuable opportunity for academic exchange.

#### <講演タイトル (Lecture Titles) >

- Plasma Processing for Green Technology (Dr. Takayuki Watanabe Full Professor, Kyushu University)
- Efforts Toward Sustainable Well-being Using Human Sensing and Crossmodal Interactions (Prof. Dr Engr Shin-Ichi Warisawa, University of Tokyo)
- Development and Generalization of a Three Parameter Equation of State: Optimized Attraction Term and Enhanced Computational Efficiency for Pure Fluids (Dr. Allan Paolo Almajose Professor, UST)
- The effect of electrolyte temperature and variable charging and discharging current densities in the performance of a lab-scale Vanadium Redox Flow Battery (Engr. Ma Cristina Joyce Manalo UST)
- Climate Change, Sustainable Growth and Financial Stability in the ASEAN+3 (Dr Laura Fermo Deputy Group Head and Senior Economist Macro-Financial Research Group ASEAN+3 Macroeconomic Research Office (AMRO) Singapore)
- Climate Change Literacy and Educational Innovations (Dr. Maricar Prudente Professor, De La Salle University)
- Continuing Collaborative Research on Engineering Education through the JSPS Bridge Program (Dr. Iris Ann Martinez Professor, UP Diliman)
- Promoting Green Technologies and Innovative Solutions for a Sustainable Future in the Context of Higher Education in the Philippines (Dr. Fernan Tupas Northern Iloilo State University (NISU))
- Innovative molecular technologies for the sustainability of the shrimp aquaculture industry (Dr. Mary Beth Maningas UST)
- In vivo production of purebred wagyu embryos by superovulation and artificial insemination techniques (Dr. Danilda H. Duran Career Scientist, Philippine Carabao Center)

## ■タイ科学技術博覧会 2024 に出展 (2024 年 8 月 16 日から 25 日)

## ■JSPS held the booth Exhibition at Thailand National Science and Technology Fair 2024

(August 16th to 25th, 2024)

2024 年 8 月 16 日から 25 日にかけて、タイ高等教育科学研究イノベーション省が主催するタイ国内最大規模の科学技術博覧会 Thailand National Science and Technology Fair 2024 にブース出展しました。

当センターのブースでは、タイに拠点を置く日本の大学のポスター展示のほか、日本の大学で行っている研究の紹介として、金沢大学の竹内裕教授の監修による実演・展示を行いました。魚やカニの体の作りを調べたり、水中マイクで魚の声を聴いたり、フィッシュレザーとバイオプラスチックで名札を作ったりしながら、自然資本や循環型社会を大切にしたビジネスアイデアを共に考える内容で、ブースには終始大勢の子どもらが訪れました。興味で瞳を輝かせながら、タイ文字でビジネスアイデアを書き起こすなど積極的に実演に参加する姿が多く見られ、大盛況となりました。



JSPS の展示ブース  
(日本の大学のポスター展示)  
JSPS exhibition booth  
(posters of Japanese universities)

From August 16 to 25, 2024, we participated in the Thailand National Science and Technology Fair 2024, the largest science and technology exhibition in Thailand, hosted by the Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation.

At our booth, we displayed posters from Japanese universities based in Thailand and introduced research conducted at Japanese universities. Under the supervision of Professor Hiroshi Takeuchi from Kanazawa University, we conducted demonstrations and exhibits.

These included examining the bodies of fish and crabs, listening to fish sounds with underwater microphones, and making name tags from fish leather and bioplastics. The activities aimed to foster business ideas that value natural capital and a circular society. The booth was constantly visited by many children, who actively participated in the demonstrations, their eyes shining with interest. They eagerly wrote down business ideas in Thai script, making the event a great success.



JSPS の展示ブース(実演・展示)  
JSPS exhibition booth  
(demonstration and display)



■ネパール同窓会らが「9th Symposium of Nepal JSPS Alumni Association (NJAA)」を開催  
(ネパール・カトマンズ) (2025 年 1 月 13 日)

■NJAA held "9th Symposium of Nepal JSPS Alumni Association (NJAA)" (Kathmandu, Nepal) (January 13, 2025)

2025 年 1 月 13 日に、JSPS ネパール同窓会 (NJAA) は「9th Symposium of Nepal JSPS Alumni Association (NJAA)」をネパールのカトマンズにて開催しました。農村における野生動物の対応をテーマとして、日本とネパールの研究成果を交換しました。

プログラムでは、在ネパール日本大使館の田村臨時代理大使、大谷吉生センター長らが挨拶を行い、日本からは日本大学の三谷奈保准教授、ネパールからはトリブバン大学の教員や地元の農家の代表者が講演を行いました。さらに、主賓としてネパールの農業畜産開発大臣 (Minister of Agriculture and Livestock Development) が招かれ、講演を熱心に聞かれています。また、追川副センター長が JSPS の事業説明を行い、ネパールの研究者に JSPS プログラムの活用を広報しました。

On January 13, 2025, the JSPS Nepal Alumni Association (NJAA) hosted the "9th Symposium of Nepal JSPS Alumni Association (NJAA)" in Kathmandu, Nepal. The symposium focused on addressing wildlife in rural areas and exchanged research findings between Japan and Nepal.

The program began with greetings from Acting Ambassador Tamura of the Embassy of Japan in Nepal and Center Director Yoshio Otani. From Japan, Associate Professor Nao Mitani from Nihon University delivered a lecture, while faculty members from Tribhuvan University and representatives of local farmers spoke from Nepal. Additionally, the Minister of Agriculture and Livestock Development of Nepal was invited as the guest of honor and listened attentively to the



農業畜産開発大臣や講演者との記念撮影  
Commemorative photo with the Minister of Agriculture and Livestock Development and other speakers



NJAA の会長 (写真右) と大谷センター長  
NJAA President (right) and Director Otani



JSPS 事業説明をする追川副センター長  
Deputy Director Oikawa, explains JSPS projects

presentations. Deputy Director Oikawa also provided an explanation of JSPS's projects, promoting the use of JSPS programs to Nepalese researchers.

#### <講演タイトル (Lecture Titles) >

- Exploring Diverse Challenges and Solutions (Dr. Naho Mitani, Associate Professor, Nihon University, Japan)
- Need of Integrating Wildlife Ecology and Socioeconomics for the Evidence-based Management of Human-Monkey Conflicts in Nepal (Dr. Laxman Khanal, Associate Professor, Central Department of Zoology, Tribhuvan University)
- Wild life management in Himalayan region of Nepal (Dr. Madhu Chhetri, NTNC)

- インドネシア同窓会 (JAAI) らが「The 8th International Symposium of JSPS Alumni Association of Indonesia」を開催 (インドネシア・ジョグジャカルタ) (2025 年 2 月 20 日)
- JAAI held “The 8th International Symposium of JSPS Alumni Association of Indonesia” (Yogyakarta, Indonesia) (February 20, 2025)

2025 年 2 月 20 日に、JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) は「The 8th International Symposium of JSPS Alumni Association of Indonesia」をインドネシアのジョグジャカルタにあるガジャ・マダ大学にて開催しました。「適応力、回復力、持続可能性のあるインドネシアに向けた JAAI の役割」をテーマとし、日本とネパールの研究者がそれぞれ講演を行いました。



JAAI メンバーと  
With JAAI members



また、JSPS からは、大谷センター長が挨拶を行うとともに、福田副センター長が JSPS の事業説明を行いました。

本シンポジウムはハイブリッド形式で開催され、オンラインでは 150 名の方が視聴しました。シンポジウムでは、各講演セッションに加えて、インドネシア研究者連合

(Indonesian Researcher Union) と JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) の間で覚書の調印式や、JSPS の RONPAKU プログラムの修了生に対するメダル授与式も行われました。



JSPS 事業説明をする福田副センター長  
Deputy Director Fukuda explains JSPS projects

#### <講演タイトル (Lecture Titles) >

- Enhancing the Research and Innovation Ecosystem (Dr. Prakoso Bhairawa Putra (Director of RTI Policy Formulation, BRIN))
- Policy and Transformation of Higher Education, Science, and Technology (Dr. Berry Juliandi S.Si., M.Si.)
- The Role of Professional Research Organizations in Increasing International Collaboration (Prof. Dr. Bambang Subiyanto, M. Agr.)
- The Role of Geothermal Energy in NDC in Indonesia (Prof. Agung Harijoko (Faculty of Engineering, Universitas Gadjah Mada))
- Marine Potentials, Innovations, and Translational Pathways in the Context of Sustainable Development (Prof. Alim Isnansetyo (Faculty of Agriculture, Universitas Gadjah Mada))
- Technology Transfer of Nature-inspired Bioceramics for Bone Regeneration (Prof. Maria Pau Ginebra (University Politecnica de Catalunya))
- European Regulation on Medical Devices (Prof. Nesrin Hasirci (Middle East Technical University))
- Development of Integrated Bio-circular Economy from Food and Energy Estate Waste Fraction to Biofuel and Bio-chemicals Using Microorganisms (Prof. Chiaki Ogino (Kobe University))

■  **Bangladesh同窓会(BJSPSAA)らが「16<sup>th</sup> International Symposium 2025」を開催**  
( Bangladesh・ダッカ) (2025年2月23日)

■  **BJSPSAA “16<sup>th</sup> International Symposium 2025” (Dhaka, Bangladesh) (February 23, 2025)**

2025年2月23日に、JSPS Bangladesh同窓会 (BJSPSAA) は「16th International Symposium 2025」を Bangladeshのダッカ大学にて開催しました。「持続可能な未来のためのイノベーション：新たな課題に取り組むための科学技術の活用」をテーマとし、日本とネパールの研究者がそれぞれ講演を行いました。

また、JSPSからは、大谷センター長が挨拶を行うとともに、福田副センター長が JSPS の事業説明を行いました。

本シンポジウムでは、各講演セッションに加えて、JSPS の RONPAKU プログラムの修了生に対するメダル授与式も行われました。

< 講演タイトル (Lecture Titles) >

■ How marine debris affects the productivity of marine ecosystems(Professor Gregory N. Nishihara (Nagasaki University, Organization for Marine Science and Technology, Institute for East China Sea Research, Nagasaki, Japan))

■ Creation of novel cereals via in vitro fertilization system toward sustainable agriculture(Professor Takashi Okamoto (Department of Biological Sciences, Tokyo Metropolitan University, Tokyo, Japan))

■ Potential application of novel technology for early pregnancy detection in cattle (Professor Keiichiro Kizaki (Department of Veterinary Medicine, Faculty of Agriculture, Iwate University, Iwate, Japan))

■ Microplastics impact of marine organisms and expanding process (Professor Masashi Yokota (Department of Marine Biosciences, Tokyo University of Marine Science and Technology, Tokyo, Japan))



会場の様子  
(At the symposium)



RONPAKU プログラムメダル授与式  
RONPAKU Program Medal Award Ceremony



その他の主な活動（2024 年 4 月～2025 年 2 月）

Other activities of JSPS Bangkok Office from April 2024 - February 2025 are as below.

<2024 年>

■ 6 月 6 日 日 ASEAN 科学技術協力委員会（カンボジア・シェムリアップ）に出席

June 6 Attending the 13th Meeting of the ASEAN-JAPAN Cooperation Committee on Science and Technology (AJCCST-13) (Siem Reap, Cambodia)

■ 8 月 16 日 明治大学タイ短期派遣プログラムの参加学生に事業説明

August 16 Explanation about JSPS to students participating in Meiji University's short-term study abroad program in Thailand

■ 9 月 2 日 スリランカ教育省やコロンボ大学等を訪問

September 2nd Visit to the Ministry of Education of Sri Lanka and University of Colombo

■ 9 月 9 日 在タイ大学連絡会（JUNThai）にオブザーバー出席

September 9th Attended the JUNThai as an observer

■ 9 月 25 日～26 日 JSPS タイ同窓会 論文指導ワークショップに出席

September 25-26 Attending the 7th Writing Manuscript Workshop for International Publication

■ 10 月 19 日 JST 第三回日印大学等フォーラム（インド・デリー）に出席

October 19 Attending the 3rd JST Japan-India University Forum (Delhi, India)

■ 10 月 21 日～22 日 IITH-Japan Month - Academic Day において事業説明

（インド工科大学 ハイデラバード校）

October 21-22 Explanation about JSPS at the IITH-Japan Month - Academic Day (Indian Institute of Technology Hyderabad)

■ 11 月 19 日 国立遺伝学研究所アジア ABS 学術フォーラムにおいて事業説明

November 19 Explanation about JSPS at the National Institute of Genetics Asia ABS Academic Forum

■12 月 17 日 京都大学 ASEAN 拠点 10 周年記念式典出席

December 17 Attending the 10th Anniversary Ceremony of the Kyoto University ASEAN Center

■12 月 19 日 JSPS 海外研究連絡センター長会議出席（東京）

December 19th Attending the JSPS Overseas Office Directors' Conference (Tokyo)

■12 月 20 日 在タイ大学連絡会（JUNThai）において取組発表

December 20th Presentation at JUNThai

<2025 年>

■1 月 8 日 在タイ日本大使館主催のプリンスオブソンクラ大学における留学説明会で事業説明

January 8 Explanation of the program at the study abroad information session at Prince of Songkla University hosted by the Embassy of Japan in Thailand

■1 月 9 日～10 日 京都工芸繊維大学第 2 回天然物化学・情報医工学融合によるアグリバイオメディカル研究セミナーにおいて事業説明

January 9-10 Explanation about JSPS at Kyoto Institute of Technology's "The Fusion of Natural Product Chemistry and Medical Information Engineering for Advancement of Medicine - 2025"



## コラム Column タイ全県制覇の旅

センター職員によるコラム「東南アジア見て歩き」です。今回は追川副センター長がタイ全県制覇の旅についてお届けします。

タイには地方都市 76 県と特別行政区の首都バンコクを合わせ、1 都 76 県があります。タイ滞在中の 2 年間でチャレンジしたいことを考えた際、住んでいなければいけないこととして、全県制覇を思い付きました。調べてみると、南に位置しマレーシアとの国境付近にある 3 県は、日本の外務省が危険レベル 3 として渡航中止勧告を出していたため、3 県を除く 1 都 73 県を巡るという旅を始めました。

もともと誰と回るかもどう回るかも何のルールもないフリースタイルの旅でしたが、センターメンバーと一緒に多くの県を回ってくれました。そして、旅をすることで、各県が持つ個性やその背景にある歴史に触れ、ますますタイのことが好きになりました。74 県全ての感想を書きたいところなのですが、とてもページ数が足りないため、ほんの一部を今回のコラムとしてご紹介したいと思います。

まず、北部に位置する**チェンライ県**での貴重な経験についてです。チェンライ県には、ミャンマー・タイ・ラオスの 3 国境が接しているポイント、黄金の三角地帯「ゴールドトライアングル」があります。裸眼でも対岸のラオスがクリアに見えて、泳いでも渡れそうな距離に感じられます。夜になるとラオスの飲食店から楽しそうな音楽が聞こえて来るのですが、美空ひばりの「時の流れに身をまかせ」が流れて来た時には、耳を疑いました。小さなボートに乗りラオスに入ることも可能なため、私も朝ごはんを食べにラオスまで小さな旅を楽しみました。

また、チェンマイ県から北西へ 130km のところにある**メーホンソーン県**からは情勢にも寄りますが、歩いてミャンマーに入ることのできる国境があります。会話もできるような 1~2 メートル先にいる人たちが、自分とは別の時間（30 分の時差あり）を過ごしていて、そこを跨ぐと「国」が変わり「時間」も変わる『国境』という存在に、不思議な感慨を覚えました。

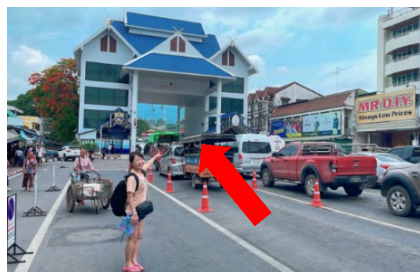


タイ全土の地図

出典：Amazing THAILAND

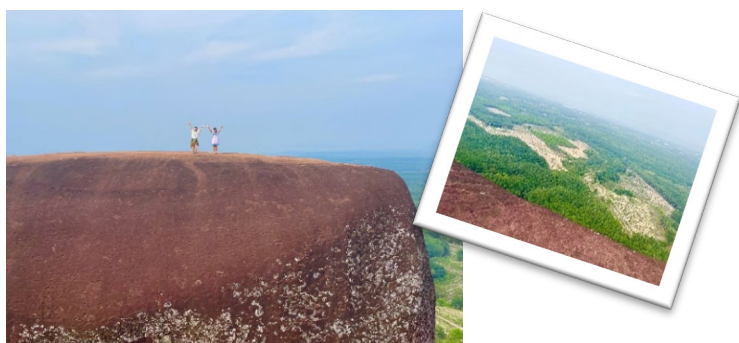


ゴールドトライアングル



ミャンマーとの国境  
(矢印の先がミャンマー)

東北方面においては、福田副センター長と追川で、国鉄での寝台列車の旅に挑戦をしました。バンコクから**ウドンターニー県**にまでは約 476 km あるのですが、タイには新幹線のような特急列車はないため、国鉄で約 12 時間かかります。しかも、ベッド付の寝台車両が予約できずに一番安いランクである 3 等車に乗ったところ、ソクランというタイの正月シーズンに被っていたため、車内が乗客であふれかえり、椅子に座れなかったため床で寝る人や一人分の椅子の隙間に座ってくる人、トイレの便座で寝ている人など、何でもありの状態でした。それでも疲れてウトウトしてくると、物を売りに列車に乗ってくる行商の人の声で目が覚めます。何よりも、タイの最も暑い時季であるにも関わらず、冷房の付いていない車両だったため、色々な面で体力の限界にチャレンジする旅となりました。



鯨岩にて

そして、電車に 12 時間ほど揺られた後、さらに車で移動したどり着いた**ブンカーン県**では、「鯨岩」という、鯨の親子に見える巨大な岩と、海に見える青い空とが交わる、絵本の中のような風景に出会うことができました。柵のない岩の上で落ちないかと足がすくむのですが、日本ではほとんど見ることでできない地平線も、巨大な鯨の背中の上からは贅沢に眺めることができます。タイの広く美しい大地がダイナミックで本当に圧巻でした。

鯨岩では必ず観光ガイドが付くのですが、私たちが行った日は学校のない日だったため、地元の小学生もガイドとして働いており、私たちのことも一生懸命に案内をしてくれました。小学生が働くことに対する賛否はあると思うのですが、そういったかたちで生計を立てている人たちがいるという現状に触れることができたことも、一つの学びとして旅の収穫でした。

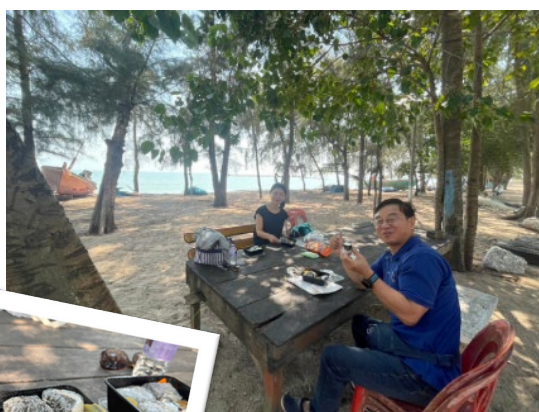
また、センター長も一緒に旅行をした、北部にある**ペッチャブーン県**では、インパクトが最大級の五連仏に出会いました。タイに 2 年近くいることで、数えきれないほどのお寺に行き仏像を見てきたのですが、五連仏は遠くから見るだけで、その異質さと美しさは際立っており、何もない山の中に急に現れる 5 人の仏様に言葉を失いました。出発する前は「遠くから見れば十分だろう」と言っていたセンター長も、「これは近くで見なければ！」とすぐに山道に車を走らせました。日本の旅行雑誌で表紙を飾ったこともあり、写真では何度も目にしていたのですが、周りの山々とこの真っ白でインパクトのある五連仏とのマッチングが見事で、実際に訪れて自分の目で見るということの大切さ、百聞は一見に如かずを体感した場所でした。





また、**ウドンターニー県**では、12月から2月にかけて湖に蓮の花が咲き誇り、どこまでも続く真っピンク色の絨毯のような光景を目にすることができます。期間中であっても正午を過ぎると花は閉じてしまうため、朝だけ見ることでできる貴重な光景です。“蓮の花“しかもここが“仏教国タイ“ということもあり、何かご利益がありそうな、そして心を洗われるような、この世のものではない美しさでした。

さて、旅の行先を調べている中で、タイにも温泉が点在していることに気が付きました。足湯だけの場所もあるのですが、全身で入るスタイルの場所では、渡される服を着て入浴するなどします。基本的にそれらは屋外にあり値段も非常に安いです。センターのメンバーでも、南部にある**サトゥーン県**で温泉を訪れ、私は日本を離れてから1年以上ぶりであった温泉にたくさん気持ちのいい汗を流しました。タイ人のお客さんたちは私たちがぬるいくらいに感じるお湯にも熱いと話しており、私たちが長湯していることに心配をして話しかけてくれたため、熱々の温泉やお風呂に慣れている私たち日本人にはそれが新鮮でした。全県制覇の次は、タイの温泉を巡り、日本のとタイにおける温泉の比較を行っても楽しいかもしれません。



センター長のお手製  
弁当でランチ

湖と温泉に続いては海についてです。南部ある**プーケット県**は有名でどこまでも透き通った海がきれいなのですが、日本人があまり多くなく、タイ王室の避暑地である**プラチュアップキリカーン県**にあるホアヒンもお勧めのビーチです。バンコクセンターメンバーでは、ホアヒンの静かな海を眺めながら、センター長お手製のおにぎり弁当でピクニックをしました。こじんまりとした落ち着いた白い砂浜のビーチなので、静かにのんびりと過ごしたい人にはとてもお勧めです。

最後に、旅の大きな楽しみの一つと言え、その土地の料理を味わうことだと思います。私たちが各県でそれぞれの美味しいローカルフードに出会い堪能しました。その中で印象に残った料理を厳選して3品紹介します。

まず、タイの東北部イサーン地方発祥と言われるムーガタは、私のベスト・オブ・タイ料理で、**ナコーンラチャシマー県**のムーガタは特においしかったです。ムーガタは、独自のしゃぶしゃぶ鍋で作るタイ式焼肉のことで、焼肉と鍋が一緒に楽しめるため、タイ人にも大人気の料理です。肉やシーフードなどをじっくりと焼き、その肉汁やシーフードの旨味が、鍋部分にこぼれ落ちることによってうま味がギュッとつまんだ鍋となります。バンコクでも食べることはできますが、微妙なつくり方やタレなどに各地の違いが出ます。

また、**ウボンラチャタニー県**名物のクワイジャップユアンは、ラーメンのような見かけなのですが、米粉とタピオカ粉を混ぜて作られた麺がとにかくモチモチで、少しうどんにちかいような、くせになる歯ごたえです。その麺を出汁が利いてとろみのあるスープと食べると、それはそれは美味しい料理になります。バンコクではあまり見かけないため、私もウボンラチャタニー県で初めて食べた料理でした。

南部の**プーケット県**等の料理であるバイ・リアン・パット・カイはタイ南部で栽培されているバイリアン（グネモンの葉）とカイ（卵）をパット（炒める）炒めた料理で、少し甘い味付けと少し苦い葉と組み合わせが絶妙でとてもくせになります。バイ・リアン・パット・カイは、葉があまり出回っていないのか、バンコクのレストランで探しても滅多に見つけれられないため、南部に旅行に行った際には必食です。



ムーガタ



クワイジャップユアン

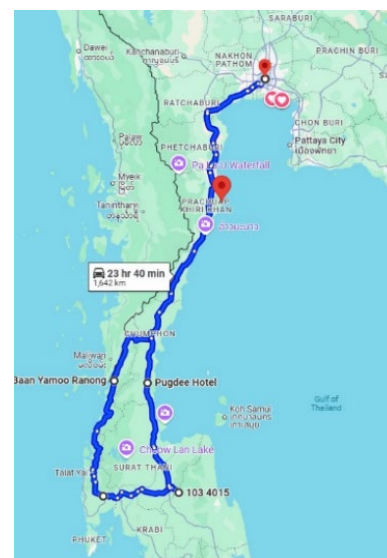


バイ・リアン・パット・カイ  
(真ん中の緑色の炒め物)

## まとめ

一県一県の全てにゆっくりと滞在したわけではありませんが、旅行の計画を立てる際には、各県の特徴や有名な場所を調べるため、タイの歴史や文化にも詳しくなることができました。また、日本と違い各県に電車が通っているわけではないため、住んでいなければ行けないアクセスの良くない場所にも行くことができたことは、タイに住んでいるというメリットを活かした経験ができたかと思います。また、英語が通じ英語の看板やメニューが用意されているバンコクとは違い、地方では英語が全く通じない場所が多く、一生懸命に知っているタイ語で現地の人とコミュニケーションを図ったり、看板のタイ文字を解読（看板の文字はかなり崩した文字になっているため読むのが難解）して無事に回りきれたことは、大きな自信にもなりました。

今回の旅に協力をしてくださった方々や出会えたタイの方々に感謝をし、楽しかった全県制覇の旅を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。



車に乗り二日間で1,700Km  
の縦断をした週末も



## 表紙写真紹介 チェンマイでのコムローイ祭り

タイ王国全土において、毎年11月頃にロイクラトン祭りが開催されます。特に、タイ北部のロイクラトン祭りは、イーペン祭りと呼ばれて、チェンマイにおいては2日間コムローイ祭りが開催されます。コムローイは「天灯（ランタン）」という意味で、天にいるブッタへの敬意を込めてランタンに火を灯し、一斉に夜空に放ちます。このランタンを空に打ち上げる様子は息をのむほどの美しいと聞き、絶対に行きたい場所の一つでした。

ディズニーの映画「ラプンツェル」において、似た景色が描かれてたこともあり、日本や海外からも参加者が多く、日本からもツアーが組まれているほどです。私も日本から来た友人とチェンマイで合流し、一緒に参加をしました。



会場は街中から1時間以上かけて山に入った1万人程を収容する広い敷地で、タイ料理を食べたり花火を見たりタイの音楽や伝統文化に触れたりしながら、夜になるのを待ちます。

そして指定された席には、自分用のランタンが用意されており、司会の人の掛け声で一斉に空にランタンを上げます。それは想像をしていたよりもさらに美しく、私自身も空に吸い込まれていきそうな、星の一つになったような気分にさせられる景色です。1万人程の人が1人2つずつのランタンを打ち上げるため、その美しい時間が30分程続き、長い間うっとりとした時間を過ごすことができました。

また、司会の人は「願いをランタンに寄せ飛ばしてください」と呼びかけを行っており、空を飛ぶランタンは会場にいる人達それぞれの祈りや願いなのだと思うと、ますます輝いて感じられます。私自身も叶えたいことや上手くいくこと上手くいかないこと、色々なことがあります、この美しいランタンの空を見ると、願い事があること自体が美しいのではないかと気づかされ、忘れられない夜となりました。

ただ、このランタンは紙でできているため燃えやすく、ランタンを飛ばせずに燃やしてしまう人も多くおり、スタッフは消火器を持って走り回っていました。また、毎年このお祭りの後には落ちたランタンがもとで近隣に火災が発生するということで、安全な実施方法の模索がこのお祭りを続けていく鍵のようです。

なお、昨年度はバンコクでロイクラトン祭りに参加し、近くの川に灯籠を流しに行きました。灯籠はバービー人形が丸ごと乗っていたり、カラフルなケーキみたりだったり、デザインもユニークで、色々なことに寛容なタイならではの楽しさがありました。

今年、タイの各地でランタンや灯籠に灯されたみんなの思いや願いごとが、どうか一つでも多く叶いますように。



バンコクでの灯籠流し



様々なデザインの灯籠

## アクセス&コンタクト Access & Contact

### ■ アクセス Access

- ・ BTS Asok 駅、1 番出口から徒歩約 5 分
- ・ MRT Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩約 5 分  
5-minute walk from Exit 1 at BTS Asok station and MRT Sukhumvit station

### ■ コンタクト Contact

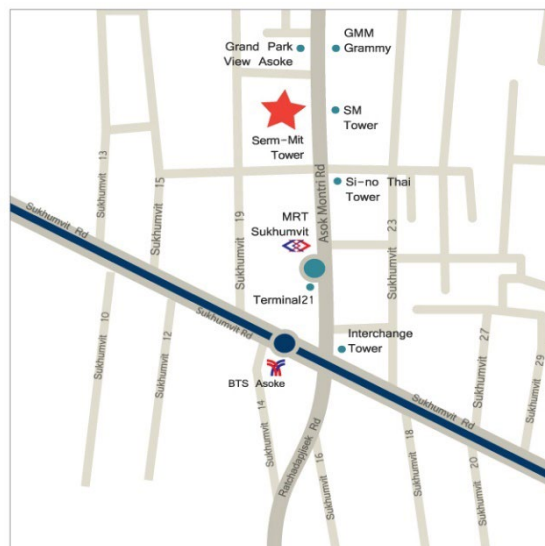
1016/3, 10th Fl., Serm-mit Tower,  
159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110,  
Thailand

Tel: +66-2-661-6533

Website: <http://jsps-th.org>

Email: [bkk@overseas.jsps.go.jp](mailto:bkk@overseas.jsps.go.jp)

Facebook: JSPSBKK



JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」 JSPS Bangkok Office NEWSLETTER

監修：大谷吉生 編集担当：追川ケイ子 Directed by Yoshio Otani, Edited by Keiko Oikawa



左から大谷センター長、福田副センター長、  
追川副センター長、現地スタッフの Boston